

グローバル・シチズンシップで世界をつなぐ

「一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT)」

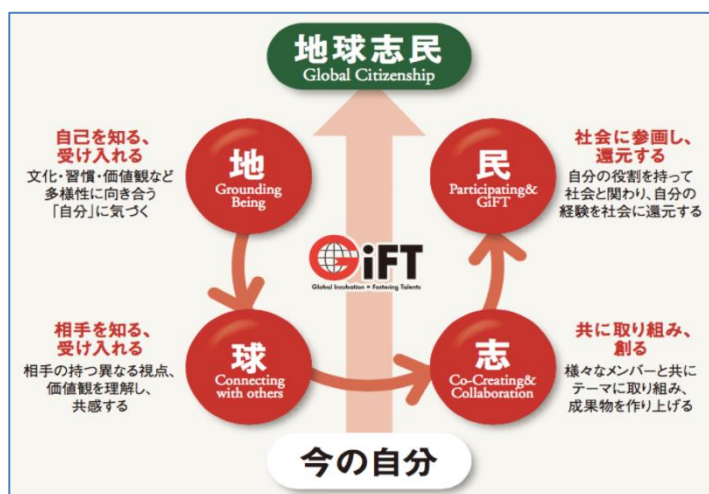
代表理事 辰野まどか さん」にお聞きしました！

GiFT 辰野事務局長が取り組もうとされていることを教えて下さい。

(一社)グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) は、「グローバル・シチズンシップで世界をつなぐ」をミッションに、主に中学生、高校生、大学生、社会人を対象にしたグローバル・シチズンシップ・プログラムを国内外で提供しています。GiFT では、グローバル・シチズンシップを「世界をよりよくする志」と定義し、地球志民プロセス(図 1)に沿って、一人一人の中にあるグローバル・シチズンシップを育みます。

具体的には、SDGs (持続可能な開発目標) に基づき、東南アジア 7 カ国で社会起業家と共に、それぞれの国、地域が抱える貧困問題や環境問題、多文化共生の鍵などを現地の若者たちと探求していく短期海外研修を実施しています。また、文部科学省が展開する「トビタテ! 留学 JAPAN」では、高校生コース事前事後研修を通して、生徒たちが自身の志とつながり海外に飛立ち、また帰国後その経験を自身の人生の糧にしていく場づくりを行っています。GiFT が大切にしていることは、「世界とつながる前に自身の志とつながる」こと。そして、他者理解、協働・共創を通して、社会に参画・貢献していくことです。ダイバーシティ・ファシリテーターと呼ばれる多様性を引き出す場づくりのプロフェッショナルが、参加者の感性やワクワク、モヤモヤに価値をおいた体験型学習を行っています。

また、私自身は、2014 年から ESD ユースに関わりを持ち、2015 年より「持続可能な開発のための教育 (ESD) 円卓会議」委員としても活動をしており、ESD を通じたユースエンパワメントに参画しています。



(図 1) 地球志民プロセス



学生が共創体験を通じて「多様性適応力」を身に着ける「Diversity Voyage」事前研修の集合写真

ユネスコ GCED(Global Citizenship Education)アジア会合について教えてください。

国連が定める SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールの一つ、ゴール 4「質の高い教育」の項目 7 においても ESD と共に「グローバル・シチズンシップ」がキーワードとして書かれており、グローバル・シチズンシップ教育（GCED）会合（ユネスコ・バンコク事務所主催）においても、9 カ国が集まり、GCED をいかに既存の教育に導入していくのかが話し合われています。1 回目の会合は 2015 年に開催され、その後、2017 年に 2 回目、3 回目が、行われました。今年 6 月に行われた会合の冒頭では、所長から「GCED（グローバル・シチズンシップ教育）とは、関係性と友情だと言えます。今の世界は、多くのチャレンジがあります。例えば、津波や気候変動など、こういったチャレンジには国境はありません。だからこそ、共に立ち向かうための関係性が必要になります。一人一人の関係性こそが GCED に必要なのです。」とご挨拶がありました。

会議において、1 回目から強く強調されていたのが、「GCED を新たな教育、として位置づけたい訳ではない」ということで、川のメタファーを使いながら「今まで平和教育や ESD、国際理解教育や環境教育など様々な教育が生まれ、その流れは大きな川にも例えられる」と。GCED は、その中の一つであるから、ESD を推進する中、例えばブータンであれば、国民総幸福量（GNH）に関する教育を推進する中で、GCED を取り入れていけばよい、とお話しされていました。各国のあり方で、必要なものを取り入れ、実施し、お互いに高め合っていく、その価値を実感する会議でした。GiFT からは、GiFT がグローバル・シチズンシップ・プログラムで行う対話型ワークショップ「ダイバーシティ・ダイアログ」、また、認定ファシリテーターとして行っている「2030SDGs」カードゲームを実施し、事例を共有しました。多国籍の会合だからこそ、ワークショップの後に、「皆で力を合わせれば SDGs は達成できるかもしれない」という感想も生まれ、教育に携わる方々の温かさ、思いを実感しながら、このつながりを大切に、SDGs に関する教育推進をしていこうと決意を新たにできました。



2030SDGs ゲームの集合写真

開発教育・国際理解教育に関心を寄せる読者のみなさまへ、今後につながるようなメッセージがあればお願いいたします。

17 歳の時、NGO の国際会議に参加したことがきっかけで、その後ずっとグローバル教育の場づくりを行ってきました。そして、近年感じるのが、「今、教育に関われるのは本当に面白い」ということです。世界が分断していくことを憂うニュースがある一方で、今、教育が世界をつなぐ時代になったのではないかと感じています。今まで、政治、ビジネス、金融等で世界はつながってきていたけれども、各国ごとにまとまっ

ていた教育が ESD やグローバル・シチズンシップという言葉で繋がりはじめていることを実感します。

日本では「グローバル」という言葉がつくと、語学力や海外経験の有無などが関係するように扱われますが、ESD や GCED の国際会議などではそのようなことは扱われていません。もっと身近にある多様性や寛容性、世界とのつながりにフォーカスをあて、自分の足元から行動できる人づくりを行っています。

学生のころ、外務省外郭団体である「国際協力プラザ」でインターンをしており、小中学校教員用副読本「開発教育・国際理解教育ハンドブック」の編集に携わりました。当時、各校にこのハンドブックが配布され、この教育が広まることにワクワクしたのを覚えています。その時から、15年以上経過していますが、この必要性は当時以上に高まっているように感じます。

今、学習指導要領の改訂もあり、戦後最大の教育改革となると言われています。この「教育で世界がつながる」潮流から、ESD や GCED、国際理解教育、開発教育などが力強くメインストリームに定着していくよう尽力していきたいと思います。